



「みんなの日本語」のメンバー

Contents

＜安心して、楽しく暮らすために＞
みんなの日本語

＜とみさとの魅力みつけた！＞
ラッピーいしばしさん

安心して、楽しく暮らすために

富里市は、外国人の人口比率が千葉県内で1位となっており、日本語をあまり話せない子どもたちの人数も多くなってきました。

外国籍の子どもたち（小中学生）が、安心して楽しく学校生活が送れるように、日本語の「話す、聞く、読む、書く」ことの学習支援をしている「みんなの日本語」取材しました。

言葉に不自由しないように

「みんなの日本語」は、市内在住の外国にルーツを持つ子どもたちに向けて、日本語学習支援をしています。今年で設立してから15年が経ちました。代表の宇井康博さんを中心に現在は13名のボランティアスタッフで活動しています。

宇井さんはベトナムや中国など海外で仕事をしていた時に、言葉を話せないことがいかに不自由かを実感したそうです。そんな時、現地の方にとっても親切にされた経験がこの活動をするきっかけになったと話してくれました。

立ち上げた当初は、大人向けに開催していました。活動して2年目の夏休みに小中学生の宿題を見てあげたことがあり、話もできない、漢字を書くこともおぼつかない外国籍の子どもたちを目の当たりにしたそうです。日本で暮らしていく以上、言葉で不自由しないようにしっかり見てあげたいと強く思い、それからほどなく、小中学生中心の教室に切り替えました。

活動におじゃましたのは1月の土曜日。お正月が明けて初めての授業だったので、生徒の皆さんが来るかスタッフの方たちはそわそわしていました。そんな心配をよそに、一人、また一人と教室に入ってきて、子どもたちはマンツーマンで気心が知れたスタッフとの会話を始めます。「風邪はひきませんでしたか？」「勉強はしましたか？」恥ずかしがり屋のアキオくんは、うまく答えられません。クリスマスプレゼントの話になると、顔色がぱあっと明るくなりニコリしました。そこへ、「どんな気持ちだった？うれしかった？たのしかった？」と丁寧に聞く



書く練習をするアキオくん

スタッフ。アキオくんは言葉を探しながら時間をかけて答えていました。そして今度はそれを書く練習です。難しいながらも、スタッフの声かけなどでリラックスするとゆっくりと書き上げました。

「アキオくんは現在小学5年生ですが、中学生になるまでに学校の授業に少しでもついていけるように、なんとか理解を深めてもらいたいんです。でもお休みの日にわざわざこの場に出かけてくること自体、頑張っているんですけどね。」と、担当の林さんは話してくれました。

令和7年1月末現在、富里市内在住の外国人は4,262人、国籍は60か国に上ります。3年前まではここに通う生徒数も14人だったのが、現在は26人まで増えました。スタッフの数も8人から13人になりましたが、教える側の数が足りないもので、2部制にして60分みっちりと教えています。

サポートセンターからのお知らせ

ボランティア手帳を活用しませんか？

市民活動や自治会の活動をはじめ、近所の道路・公園のゴミ拾いといった自身のちょっとしたボランティア活動を記録しませんか？手帳の活動記録が埋まったら、とみさと市民活動サポートセンターにお持ちください。日頃の感謝を込めて、終了証をお渡しします。



大人用ボランティア手帳



子ども用ボランティア手帳

《ボランティア手帳配架場所》

とみさと市民活動サポートセンター 富里市ボランティアセンター 富里市立図書館
富里北部コミュニティセンター 中部ふれあいセンター

活動は毎週土曜日の他、週1回のペースで市内の各小学校へ出向いて教えています。なぜ15年もの間、続けてこられたのでしょうか。「子どもたちの将来のことを第一に考えてきたこと。なんとか力になってあげたいとの思いがスタッフ全員にあったからではないか。」と、宇井さんと二人三脚で活動してきたスタッフは言います。

子どもたちに教えるだけでなく、保護者も教室に呼んで家庭での子どもの様子を聞く。子どもから聞いた話を親に伝える。そんなキャッチボールをしながら、普段の様子に変化があれば学校や市役所の学校教育課など関係各所とコンタクトをとって橋渡しをしてきました。そうすることで、いち早く問題を解決することもできたそうです。

どんな些細な言葉も汲み上げ、それを関係機関につなげていくといった小さな努力を積み重ねてきました。そうしてだんだんと「子どもたちのために」という共通の感情がスタッフ全員に芽生えてきたそうです。

特別な資格は必要ない

昨年の1月から見習い期間を経てスタッフとなった鈴木さんは、福祉まつりでの「みんなの日本語」のブースでボランティアを募集していることを知りました。テレビのニュースなどで色々な自治体が外国人支援のボランティアをやっていることは知っていましたが、何か特別な資格が必要だと思っていたそうです。外国語を話せる必要はない、資格も必要ない、日本語が話せれば大丈夫と知って一気にハードルが下がり、始めてみようと思いました。



マンツーマンで教える鈴木さん

鈴木さんは野球が好きなので、子どもたちにわかりやすいよう例えを野球にからめて教えるなど、工夫を重ねているそう。「はじめは不安でしたが、子どもたちの成長を間近で見られることは大変だけど嬉しいし、やりがいを感じます。学校の先生の気持ちがわかるようになりました。」と、話してくれました。

□■取材を終えて■□

大人でも「日本語は難しい」と感じる時があります。もっと言葉を知っていたらちゃんと伝えられたのにと、もどかしい気持ちになるのは子どもだけではありません。

日本語を教える側も根気があるし、ここに来ている子どもたちも本当にがんばっていると思いました。

この活動は外国語を話せるといった特別な技術や資格は必要ありません。少しでも興味を持たれたら「とみさと市民活動サポートセンター」までご連絡ください。

～ちい寄附～ 寄附で支えるまちづくり

地域のために小さな寄附から ～市民が市民活動を支える寄附の仕組み～

協力店舗で「寄附メニュー」購入代金の一部または寄附箱へ「地域のために小さな寄附」をすることで、気軽に公益的な活動を応援でき、まちづくりに参加できる仕組みです。

寄附金は、市のふるさと応援基金に入り、富里市がよりすみやすい地域になるように活動している市民活動団体への補助金に、活用されています。



協力店舗はこのロゴマークが目印です。また、一覧をご覧になりたい方は二次元コードからご確認ください。

とみさとの魅力みーつけた！

富里の魅力ある「人」「場所」「文化」などにスポットを当てて紹介していきます。

マジシャン ラッピーいしばし さん



79歳とは思えない巧みな手さばきと若々しい笑顔で、マジックショーを観た多くの人々を虜にしている「ラッピーいしばし」さん。名前の由来は、マジックに出会って「ラッキー」見て幸せになれる「ハッピー」を合わせて「ラッピー」。「いしばし」をひらがなにしたのは子どもでも読めるように親しみを込めました。昨年はNHK「ワルイコあつまれ」の番組にもシニアYouTuberとして出演。自身のYouTubeチャンネルでは、初心者にもわかりやすい手品教室を配信しています。登録者数は約3,200人、持ちネタはなんと500以上。その優しい語り口と見ている人を笑顔にする手品は、老若男女問わず人気を集めています。



出典：NHK 「ワルイコあつまれ」ヨネキンch「シニアYouTube いらっしゃ〜い！マジックに挑戦！」



「こども食堂・とみさと」のクリスマス会

また、ラッピーいしばしさんのマジックショーは地域貢献度も高く、富里市を中心に千葉県内の老人ホームや様々なイベントに招かれ、その軽快な話術と卓越したパフォーマンスで観客を魅了し、手品の世界へと誘ってくれます。次から次へと繰り出されるマジックに観客からは大きな拍手と歓声が湧きあがります。マジックだけではなく、地元や地域の活動にも深いつながりを持ち、自治会・PTA活動・薬物乱用防止教室・保護司といった幅広い分野で地域の発展に注力されてきました。

手品を始めてから約30年。経験と研鑽を積んできたいしばしさんのパフォーマンスは、まさにプロの領域です。しかし、その魅力は、技術だけではありません。人々に笑顔と感動を届けてハッピーになってもらう。そんな純粋な心や気持ちから生まれてくるのではないのでしょうか。

コーディネーターのひとりごと

3月は色とりどりの花がほころぶ季節ですね。富里の花「サルビア」は秋の花ですが、春のお花として「芝桜」を植えてみては？生命力が強く多彩な色で目を楽しませてくれる「芝桜」はうってつけだと思います。（さわ）

SNSアカウント



<連絡先>とみさと市民活動サポートセンター

〒286-0292 千葉県富里市七栄652番地1(富里市役所 すこやかセンター1階)

■Tel/Fax:0476-93-4123 ■E:tomisapo@bz04.plala.or.jp

登録団体数：90団体（3月1日現在）

年4回発行 発行部数：2500部 配布先：市内公共施設 他

